

# 東大現代文 ハンドアウト

— 第 5 回 (2002 年度 第 1 問) —

氏名：\_\_\_\_\_

## ハンドアウト

### (1) 設問一

#### ① 構文

**Ans.** 主語は？ 強調構文になっているので注意。主語は第一人称の死である。だから、「第一人称はつねに未来形でしかありえないということ」のことを説明することになる。

#### ② 分析

**Ans.** 「第一人称の死」、「つねに未来形でしかありえないもの」

#### ③ 「第一人称の死」

**Ans.** このままでは答案の自立性を満たさない。具体的に説明しよう。12行目に「自分の死」とある。要は、他人の死ではなく自分自身の死のことであることが伝わればよい。

#### ④ 「つねに未来形でしかありえないもの」

**Ans.** ストレートに説明できない場合は、対比を考えるのが常套手段。未来形でしかあり得ない、ということは言い方を変えれば、現在形や過去形ではあり得ないということである。これで大枠をつかんで、未来形という言葉の積極的な意味を考えていくのが、方針としてスタンダードだろう。

というわけで、「過去形や現在形ではありえない」という消極的な説明と、「未来形でしかありえない」ことの積極的な説明を行うことが、本問の課題である。

まず、「第一人称の死」という語の反復に着目すれば、1行目の「第一人称の死は、決して体験されたことのない、未知の何ものである。論理的に知りえないものである。」がヒントになることは明らか。

ここから、「決して体験されたことのない」「論理的に知りえない」が「過去形や現在形ではありえない」の説明に対応する事が分かる。はっきり分ける必要はないが、一応、前者が過去形、後者が現在形に対応していると思われる。過去に死を経験したこともなければ、今現在死を経験しようとしても論理の力を使っても体験どころか想像すらできない、その未知の徹底性を、時制の観点から表現したのが傍線部の意味である。

#### ⑤ 「未来形」のニュアンス

**Ans.** 次に「未来形」の積極的な意味を考えよう。not A but B の B の部分である。「未来」という語のニュアンスを答案に表現したい。

さて、「つねに未来形でしかありえない」の積極的な説明としては、傍線部直後の「現実化したとき…それを体験することになる」がヒントになる。つまり、「死」とは実際にやってきた時にはじめて体験できる、逆に言えば、死ぬ直前までは体験することができない、常に未知のものであり続けるということである。

このあたりのニュアンスを答案に出すことを意識したい。「常に…であり続ける」「徹底的に未知のものである」などと、強調した言い方をするとよいだろう。

### 【採点基準】

(1) 未知・不可知性【4点】

(2) 時制の観点での議論【2点】……過去、現在において経験されたものではない(将来において必ず死ぬことは書かなくとも良い)

※〈減点〉「第一人称」のまま→言い換え：「私、自分自身」

【解答】

解答

自分自身の死とは、過去・現在と経験されたことはなく、論理的にも不可知のものでありながら、必ずや将来には到来するということ。(61 字)  
(鉄緑会)

解答

自分自身の死とは、これまで体験したことがなければ、論理的にも知りえないものとして、徹頭徹尾、未知のものであり続けるということ。(63 字)  
(矢野)

解答

解答

(2) 設問二

⑥ 構文

Ans. 理由説明なので「…だから」とする。名詞構文なので、文で言い換えれば「第三人称の死が陳腐であると  
言える理由を書け」ということになる。だが、理由を押さえる前に、まずは傍線部を具体化しておこう。

⑦ 分析

Ans. 「陳腐だった」「第三人称の死」

⑧ 「第三人称の死」

Ans. 「他人の死」のことだが、慎重に言い換えたい。単に「他者」としてしまうと、後半で説明される第二人称  
の他者も含んでしまう。第二人称を含まない仕方ではこれを説明すると、「第三者の死」「他人の死」「自分とは  
無関係な他者」などとするとよい。

⑨ 「陳腐だった」

Ans. 「陳腐」とは「ありふれていて、面白みが感じられない様子だ」ということだが、まずは本文ではどのよう  
な意味で使われているかを確定したい。

まず、傍線部の後ろにある「…意味を持ってくる」という表現に着目しよう。「もってくる」という表現の  
ニュアンスから、これまでは「意味を持っていなかった」ということがわかるから、「陳腐」は「意味がない」  
という意味に近い意味で使われていることが分かるだろう。

次に、類義語に着目しよう。12 行目に「何らの糧にもならない」とあるので、この周辺がヒントになりそ  
うだ。13 行目の「自分の万年筆やハンカチや財布をいくら紛失したとしても」は比喻なので、一般化して説  
明したい。「ものが消滅すること」くらいに一般化できよう。

以上から、傍線部は、「自分とは無関係な他者の死はものの消滅と同じくらい無意味だということ」、くら  
いに具体化できるだろう。では、なぜ無意味と言えるのか。

⑩ なぜ陳腐なのか、その理由

Ans. 類義語に着目して、11 行目の「何らの糧にもならない」に目を向ける。直前に「…ための、何らの糧にも  
ならない」とあるので、何に関してどう役に立たないのだろうか。それは 12 行目にある「自分の…死のなん  
たるかを知ろうとする」ことにとって意味がないことだろう。自分の死とはどういうものなのかについて何  
も教えてるところがないという意味で、物の消滅と同様に、何の役にも立たない、ということなのである。

【採点基準】

- ・ 第三人称の死の定義：「第三人称の死は、私にとって、消滅であり、消失であった。」【2 点】
- ・ 「私の死」の不可知性に対する無益さ【4 点】
- ・ 〈減点〉「第三人称」を大雑把に「他者、他人」と処理する間違い（他者・他人は、第二人称を含んでしまう）

【解答】

(1) 第三人称の死の定義：「第三人称の死は、私にとって、消滅であり、消失であった。」【2点】

(2) 「私の死」の不可知性に対する無益さ【4点】

※〈減点〉「第三人称」を大雑把に「他者、他人」と処理する間違い（他者・他人は、第二人称を含んでしまう）1点減。

解答

第三者の死は自分にとって、ものと同様の単なる消滅や消失に過ぎず、「私」がいずれ迎える「私」固有の死の実体について、何一つ教えはしないから。(69字)  
(鉄緑会)

解答

解答

(3) 設問三

11 構文

Ans. 「この」という指示代名詞を具体化できたか。「逆接」という言葉のニュアンスが分かっているか。

12 分析

Ans. 「この」「逆接性」

13 「この」

Ans. ずばり、23行目の「このことへの恐怖こそ、逆説的に、人が人間として生きてきたことへの明証となるだろう。」を指す。

「明証」はやや抽象度が高い表現なので、「明示的に示す」「はっきりと示す」などと説明した方がよいだろう。

14 「このことへの恐怖こそ」

Ans. さらに「このこと」という指示代名詞がさらに含まれているので、これを具体化する。これは20行目から始まる「日常的世界の中では…死を引き受けなければならない」という長文の内容を指している。

「日常的世界のなかでは、つねに人間として、人どうしの間の関係性のなかで生きてきたわれわれは、たとえ絶海の孤島に独りあってさえ自然のなかになか友をつくり人間的生活の回復への微かな期待を決して捨てることのないわれわれは、死において、かかる一切の人間としての関係性を喪<sup>うしな</sup>って、ただ一人で、死を引き受けなければならない。」

15 「このことが指す内容を要約する」

Ans. 指示対象が長いので簡潔に要約する。要は、「人はただ一人で死ななければならない」ということである。

16 「傍線部の具体化」

Ans. 以上から、傍線部は「人はただ一人で死ななければならないということが、逆説的に、人が人間として生きてきたことをはっきりと示している」というところまで具体化できた。後は、「逆説的」という言葉のニュアンスを答案に表現すればよいだけ。

17 「逆接性」の意味

Ans. 「逆接」の辞書的意味は「表現の上では一見矛盾しているようだが、よくよくその真意を考えて見ると、なかなか穿った説。例、「急がば回れ」など（新明解）」ということ。要は、一見すると常識に反するが、実は正しいことを言う。

ここから、構文的には「…こそが、逆に～するということ」「…こそが、かえって～するということ」と表現することが常套手段となることを押さえない。

18 「逆接」の例

Ans. 彼の健康への異常な固執は、逆説的に不健康をもたらした。

徹底的な知の浪費こそが、真の知の生産性を産む。

欲望の逆説的なあり方。ある欲望が満たされると、さらに別のものを欲望するようになる。満たされることがかえって不満足を生み出す構造のこと。

19 「逆説的に」

Ans. 以上の語義分析を踏まえて、この文脈での「逆説的」この箇所を考えよう。この文脈では、「これまで我々は人とつながり会って生きてきた、人間同士の関係性の中で生きてきた、しかし死の間際には、そうした関係性を失って一人で死ななければならない。それは怖い。しかも、一人で死ぬのが怖いと思ってしまうということは、かえって、これまでは人とつながって生きてきたということが明らかになる、だから怖いのではないか」という論理の流れである「一人で死ぬのは怖い」→「これまで人とつながって生きてきた」、このロジックが逆説的だと言っているのである。馴染みの例でいえば、「親が死んで初めて、その有り難みが分かった。」というのと似ている。

以上をまとめれば、「死への恐怖が、かえって我々の（これまでの）生のあり方を映し出している」ということが「逆説的」だと言っているのである。

【採点基準】

- (1) 生におけるあり方【2点】……「人どうしの間の関係性のなかで生きてきたわれわれ」
- (2) 死ぬときの状況【2点】……孤独の中で迎えるので死を恐れる、一人で死ななければならない
- (3) 逆説性の図式【3点】……「死」の時の状況から、「生」のあり方を探る、読み解くという論理。

【解答】

解答

誰も離れたで一人で死なねばならないことを恐れる事実から、逆に人が人同士の関係性の中で生きて来たという生の側面がはっきりするということ。(67字) (鉄緑会)

解答

人はただ一人で死ななければならないという孤独な事実への恐怖にこそ、かえって、我々が人と関わり合いながら生きてきたという生のあり方がはっきりと示されていること。(79字) (矢野)

解答

解答

(4) 設問四

20 構文

Ans. まずは、本問は「一般化」がポイントであることをつかもう。

まず、傍線部以外の場所、つまり「このとき」に着目しよう。これは直前の鉄棒の具体例で示されていることを指す。一般化すれば、「人間の身体的支配でさえも、他者の模倣から可能になる」「他者の模倣から私の身体的支配が可能になる」という事態を指す。

ただし、これで終わってしまってはならない。

まず、「われわれ」や「私」とカギ括弧がついていることに注目。ここから、ここでの「私」は「鉄棒で蹴上がりができるようになった筆者」に限定した話ではなく、「私」一般という哲学的な話であることに注意しよう。よって、この傍線部の説明は、身体に関する事実をさらに一般化した答えにならなければならない。したがって、傍線部の説明を鉄棒の話として限定的に解釈してしまうのは誤りである。

また、このことは、傍線部直後に「このような状況は、幼児においてもっとはっきりしている」とあることから言える。傍線部前の例と傍線部後の例とがいずれも同じ考え方の例として挙げられていることに注意

せよ。

21 文脈

Ans. 次に、傍線部の文脈を確定しよう。

傍線部を含む段落は、31 行目の「知性において理解された表層的な人間の孤絶性は、むしろある立場からすれば誤っていると言えるのかもしれない」とあるように、この「ある立場」の説明のための段落であることに注意しよう。つまり、傍線部は、31 行目「…人間の孤絶性は、むしろある立場からすれば誤っている」ということの論証の結論部なのである。とすれば、傍線部は、「人間は孤絶していない」「わたしとわれわれは分離していない」ということを言っているのだ、ということが分かるはず。

また、32 行目に「私の身体さえ」とあるように、この論証を、身体を例にとりて、「私は外界から隔絶されていない」ということを示そうとする論証になっていることを押さえよう（身体の境界と身体の支配が、いずれも他者から区別されてあるわけではないことの論証）。ここを押さえられないと、傍線部は、鉄棒の話として解釈してしまうことになるだろう。このあたりの誤答が最も多そうである。

22 答案の大枠

Ans. ここから答案全体としては、「私は他者から隔絶されていない」「私は我々とともにある」という方向で書けばよいことが分かる。

最後に、「私は外界から隔絶されていない」ということの中身を具体化する時に気をつけたいのは、25 行目の「それには、第二人称が介在することになる」である。「第二人称」がキーワードであることを押さえないと、傍線部の具体化としてズしてしまうだろう。

23 分析

Ans. 「われわれが私を」「造りあげていた」

24 「われわれが私を」

Ans. 「私」が複数いて、その集合体としての「われわれ」ではなく、「われわれ」が「私」に先立ってあるという存在論的先行性のことを言っている。後者の「われわれ」は、前個我的「われわれ」と言い換えられていることに注意せよ（43 行目）。簡単に言えば、「われわれ」あつての「私」、ということ。

ここに該当するのは、傍線部前では 33 行目の「実は、自らの身体的支配はつねに他者の<sup>1</sup>モホウによって獲得される、という事実」、傍線部後では 42 行目の「前個我的「われわれ」状況は、第一人称と第二人称の他者どうしに分極化する」の 2 つ。これらを一般化した答案を作成する。

「われわれ」は、25 行目の「それには、第二人称が介在することになる」という重要文言を見逃さないように。これ以降の段落はすべて、私の成立における第二人称の重要性を巡って書かれている事に注意せよ。だから、「われわれ」は「二人称的な関係性」というように具体化して説明したい。

一方「私」は「私」でもいいが、傍線部で述べられているのは「私のあり方」のことであるから、人間の自己のあり方、個我のあり方などと具体化すると分かりやすくなる。

25 「造りあげていた」

Ans. 「…があり方を決定する」こと。「私」があるのは「われわれ」があるからこそなのだ、ということ。「あり方」の優先的順序を明示すること。私の成立には、二人称の関係性が先行している、第二人称の他者が介在することではじめて、私は形成されているということ。

【採点基準】

- (1) 「われわれ」【4 点】……相互の第二人称的な連なり、第二人称的な相互作用関係性
- (2) 「私」【2 点】……個人の身体行為など、個我のあり方
- (3) 「造りあげていた」【2 点】……（他者から私が）影響を受ける、作用される

【解答】

**解答** 自己存在とは他者から自立してはおらず、人同士の関係性の、相互の第二人称的な連なりの中で、個我のあり方も決定されるということ。(62 字) (鉄緑会)

**解答** 人は他者から孤絶して存在するのではなく、人と人との第二人称的な関係性を通じて初めて、自己のあり方が形成されるのだということ。(62 字) (矢野)

**解答**

**解答**

(5) 設問五

26 構文

**Ans.** 理由が問われているので、ディスコースマーカーに着目する。傍線部冒頭に「それゆえにこそ」とあるので、傍線部直前がその理由であることが分かる。後はここを具体化するだけである。

ただし、この箇所の冒頭に「この観点から見るとき」という指示語があるので、これをさらに具体化する必要がある。

27 傍線部

**Ans.** これは、簡潔に言えば、「死において、初めてひとりぼっちになる」ということである。比喩的な表現や抽象表現が多いので、自分言葉でかみ砕いて説明しないと、書いている本人はもちろん、採点官にも理解できない日本語になってしまう。

28 大枠

**Ans.** 以上から、なぜ「人は死において、初めてひとりぼっちになる」と言えるのかを説明すればよい。その理由は、直前の「個我の孤絶性は…むしろ、抽象的構成に近いものと言うべきである」であるから、これを分かりやすく説明すればよい。

個我の孤絶性  $\left\{ \begin{array}{l} \times \text{知性的理解} \\ \bigcirc \text{第一人称における死} \end{array} \right\}$

29 分析

**Ans.** 「この観点から見るとき」、「少なくとも生にある限り」、「(個我の孤絶性は…) むしろ、抽象的構成に近いものと言うべきである。」

30 「この観点から見るとき、」

**Ans.** これは、直前の二つの疑問文を指す。

・前個我的「われわれ」状況は、第一人称と第二人称の他者どうしに分極化するとあってよからう。つまり、主体の集合体としての「われわれ」は、前個我的「われわれ」状況のある変型<sup>ヴァリエーション</sup>として考えるべきではないか。

・愛し合う二人の没我的ホウヨウは、かつての自らを育てた前個我的「われわれ」状況のある形での回復を指向する、一瞬の回復ではないか。

これらは、第 27 行目からの議論の結論であることをつかめているか。

まず、27 行目「人が自らの究極的孤絶性を肌膚に烙印のごとく自覚するのは、死をむかえることにおいて最も著しい」とあり、これは傍線部（オ）と全く同じ内容であることを押さえる。

次に、傍線部直後に「しかしその孤絶性を知性によって理解することは、むしろたやすい」とあり、さら

に、31 行目に「しかし、知性において理解された表層的な人間の孤絶性は、むしろある立場からすれば誤っている」とあることから、ここから傍線部までの議論は、「知性において理解された人間の孤絶性は誤っている、よって、やはり人間の孤絶性は死においてしか現れないのだ」、ということを示そうとする議論であることが分かる。

では、なぜ「知性において理解された人間の孤絶性は誤っている」と言えるかと言えば、それこそ問四で答えたことである。要は、前個我的「われわれ」→第一人称と第二人称の他者どうしに分極化する、ということ。この分極化が「抽象的構成」なのである。順番が逆でないことが重要で、この順序だからこそ、「個我的孤絶性」が「抽象的構成」と言えることになる。このあたりは、設問四が大きなヒントになるだろう。

31 「少なくとも生にある限り、」

Ans. 対比で考える。死ぬときは孤独だ。しかし、(1)「生きている限り」は社会集団の中で人々との関係性の中で生きていて(21 行目、問三)、また、(2)意識のあり方としても「われわれ」が「われ」に先立っているのであるから(32～47 行目)、孤絶したあり方はあり得ない、ということを押さえておこう(ただし、傍線部(オ)で問題になっているのは、(2)の方のみである)。

32 「個我的孤絶性は…むしろ、抽象的構成に近いものと言うべきである。」

Ans. まず、上述のように、「前個我的「われわれ」→第一人称と第二人称の他者どうしに分極化」という論理なので、そもそも個我が孤絶して存在しているというわけではないことを押さえる。

次に、「抽象的構成」とは何か。これはこの話題のそもそもの冒頭を見てみると、ヒントが見つかる。この文章のテーマは、死において人間の孤絶性が現れる、というものであった。しかし、26 行目「人間の孤絶性」が現れる有力候補が出てくる。それは知性によって人間の孤絶性を考える哲学的な立場である。これがそれ以降で論駁されて(問四)、やはり死においてしか人間の孤絶性は現れない、という結論になっている。この流れが文全体の流れである。

以上から、「人間の孤絶性」を知性によって理解しようとする考え方を、否定的な言い方で表現したのが「抽象的構成」であるということが分かるだろう。要は、「抽象的」や「構成」という表現で、「頭の中で抽象的に考えらえた、実体のないものである」というニュアンスが込められていることが予想できるだろう。生きている限りは、個我的孤絶というものは、観念の上で孤立させて考えられた構成物であり、実体がないということ。「抽象的構成」と表現しているのである。要は、「個我が孤絶してあることは本来的なあり方ではなく、知性的に観念のレベルで表象されたものである」ということ。のっぺらぼうや首なし人間を考えるとよい。ペガサスは逆の例(観念の接合)。

ではなぜ「抽象的構成」だと言えるのか。それは対比を考えればよい。問四で扱ったように、個我是孤絶してあるのではなく、人と人との関係性にあるのであった。つまり、個我是孤絶して存在するのではなく、人との関係性の中で生成されるのであった。よって、実際には存在しない個我的孤絶性を頭の中で思い描いている訳だから、これを「抽象的構成」と、筆者は表現したのである。

33 傍線部に合わせて答案を作成

Ans. 自らの死において本当の意味でひとりぼっちになる、ということが書けていればよい。人間は生きている間は他人との関係性の中に生きている(孤絶していない)のだから、本当の意味で孤絶するのは死ぬとき以外は、とということが、大枠として書けていればよい。

【採点基準】

- (1) 生きている中での他者との関係【10 点】……問四の内容。  
生きている限り必ず…6 点  
第二人称的な親密な間柄の他者との間で…4 点  
相互的な影響関係があり、結びついている。
- (2) 死において、初めてひとりぼっちになる【4 点】  
はじめての…3 点  
※生きている限り、個我的孤絶性は知性によって考えられた実体のないものであることを説明する。  
孤独…1 点



【解答】

解答

人間は他者から隔絶した存在ではなく、成長後でも母子関係の前個我的な連なりに似て第二人称の間柄にある人と人は結びつき、影響を与えあっている。しかし生において片時も孤絶しない人間が初めて人との連続性を喪失するのが、生からの離別である死だから。(119 字) (鉄緑会)

解答

個我は他者から孤絶して存在するのではなく、第二人称的な関係性の中で生成される。よって、生きている限り、個我の孤絶性は知性の上で考えられた実体のないものに過ぎない。それゆえ、人の孤絶性が現れるのは、自分自身の死をおいて他にはないと言えるから。(120 字) (矢野)

解答

解答

### 参考解答

- (一) 自分自身の死とは、過去・現在と経験されたことはなく、論理的にも不可知のものでありながら、必ずや将来には到来するということ。【6 点】
- (二) 第三者の死は自分にとって、ものと同様の単なる消滅や消失に過ぎず、「私」がいずれ迎える「私」固有の死の実体について、何一つ教えはしないから。【6 点】
- (三) 誰からも離れたただ一人で死なねばならないことを恐れる事実から、逆に人が人同士の関係性の中で生きて来たという生の側面がはつきりするということ。【7 点】
- (四) 自己存在とは他者から自立してはおらず、人同士の関係性の、相互の第二人称的な連なりの中で、個我のあり方も決定されるということ。【8 点】
- (五) 人間は他者から隔絶した存在ではなく、成長後でも母子関係の前個我的な連なりに似て第二人称の間柄にある人と人は結びつき、影響を与えあっている。しかし生において片時も孤絶しない人間が初めて人との連続性を喪失するのが、生からの離別である死だから。【14 点】
- (六) a 空疎 b 錯覚 c 模倣 (模倣) d 抱擁 【各 1 点—計 4 点】

## 本番までの学習法

### 【本番までの学習法】

#### (1) 演習の復習

これまでの演習の復習を、シートを見ながら総復習する。2周できるとよい。それにより、ツールの習熟を目指す。

その際、答えはなんとなく覚えているわけだから、その記憶を頼って答案をそのまま再現しても意味がない。自分が書いた答案の各要素、模範解答の各要素が、なぜ必要で、本文のどこから引っ張ってきているのか、それを意識しながら解き直す。

理系1番は満点を狙える問題が含まれているので、是非とも狙っていこう。

#### (2) 共通テスト・センターの過去問

他教科の仕上がりを見ながら、自分のレベルに合わせて、5～10年分を2週やるとよい。

シートを見ながら読解しツールを身につけつつ、選択肢の吟味に慣れる。2週目はツールと方法論の確認を意識する。正解の根拠を本文に求めて、それを印づける。

ただし、選択肢の吟味仕方に注意せよ。正解の選択肢も「比較的马シ」という程度のものも含まれているので、タブーワードをチェックするとよい。例えば、全体として今日扱った問題であれば、人は死において真の孤絶に到る、というのがテーマだったが、選択肢に「生きていると孤絶を経験し」などというワードがあれば、一発でアウトであろう。

#### (3) 補充問題（配付した冊子に載っているその他の問題）

共通テストが終わったら、トライしてみる。シートを見ながらでよいのでやってみよう。

#### (4) 古典

古文漢文の共通テスト・センターを徹底的にやり、国語全体の底上げをする。必要なら共通テスト用の講習を利用しよう。直前講習は得意な人、さらに演習を積みたい人向け。

#### (5) 漢字

表現力を磨くには語彙力の増強が最も直接的で、コスバがよいことを忘れない。他教科も相乗効果で伸びる。

#### (6) 各科目のバランスを！

共通テストで100点に満たない点数を取ることが最も大きなリスク。その次に、二次試験の専門科目、そして、二次試験の古典、最後に二次試験の現代文、という優先順位を忘れないこと。

### 【本番までの添削・質問】

本番前日まで添削を受け付ける。ここが、このゼミの真骨頂なので、是非とも利用してほしい。

#### (1) 添削・質問対象

(1) 演習の解き直しと、(2) 冊子に載っている補充問題の添削、(3) それらに関する質問、(4) 国語全般の質問・相談、について、本番前日まで受け付ける。

#### (2) コンタクト

1月以降のシフトについては、受付か電話で聞いてほしい。現時点で、月曜日と木曜日は13:30から出社している。13:00～16:00までは確実に対応可能。電話でもよい。

#### (3) 提出法

また、受付で事務の人に「矢野先生に渡しておいてくれ」と言ってくれば、採点しておく。ただし、名前といつ取りに来るのかを書いておくように。現時点では月曜日から木曜日の13:30から16:00までに取りに来てほしい。

※ 本日の分の添削は、今日の授業後に来てくれればその場でやる。